

自己像＝三脚の腰掛の上にある

1. 帰属感:健全な自己像のための基本的な柱は、帰属感、あるいは、愛されているという感じ。

帰属は、あるがままで無条件に愛されていることを知る時、感じるもの。

この世では、無条件の愛、無条件の受容を経験していない人々で満ちている。

1

---

---

---

---

---

---

---

---

自己像＝三脚の腰掛の上にある

○人に愛され、受け入れられていると感じる必要、帰属感を持つ必要。

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物として御子を遣わされました。ここに愛があるのです」(Iヨハネ4:10)

「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。私の愛の中にとどまりなさい」(ヨハネ15:9)

2

---

---

---

---

---

---

---

---

自己像＝三脚の腰掛の上にある

○神は私たちを受け入れておられる

○あなたは、神の子供として、(ヨハネ1:12)

○新しく生まれた(ヨハネ3:3-5)

○あなたは神の相続人となり(エペソ1:13,14;ローマ8:17)

○神の家族の一員とされました(エペソ1:5)

○あなたは父なる神によって愛されました(ローマ5:8)

☆今日、教会における最も大きな必要の一つは、「キリストが神の栄光のために、私たちを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに受け入れなさい」ローマ15:7

3

---

---

---

---

---

---

---

---

自己像＝三脚の腰掛の上にある

2. 価値があるという感じ: 自分に価値があるという感じ、それゆえ自分を受け入れることができるという感情。

帰属は安心感を取り扱う。価値があるという感じは、内的にかけている所がないということ、自分に関して良い感じを持っていること。

---

---

---

---

---

---

---

---

4

自己像＝三脚の腰掛の上にある

○自分は自分を受け入れるに足る者であると感じる必要、価値があると感じる必要。

○キリストが私たちの罪のために死んでくださり、私たちを価値ある者としてくださった

「ご存じのように、あなたがたが先祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、傷もなく汚れもない子羊のようなキリストの、尊い血によったのです。」 ペテロの手紙 第一 1章18～19

---

---

---

---

---

---

---

---

5

自己像＝三脚の腰掛の上にある

「背きのうちにあり、また肉の割礼がなく、死んだ者であったあなたがたを、神はキリストとともに生かしてくださいました。私たちのすべての背きを赦し、私たちに不利な、様々な規定で私たちを責め立てている債務証書を無効にし、それを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました。」

コロサイ人への手紙 2章13～14節

---

---

---

---

---

---

---

---

6

自己像＝三脚の腰掛の上にある

○価値がある、しかし、墮落している  
神の目から見た人間性を価値からだけでなく、罪深さ、反逆、神からの疎外という面から見なければならない

「人の心は何よりもねじ曲がっている。それは癒やしがたい。だれが、それを知り尽くすることができるだろうか。」  
エレミヤ書 17章9節

7

---

---

---

---

---

---

---

---

自己像＝三脚の腰掛の上にある

○神の人間をご自身の似姿に創造された  
○人間の罪によって墮落した  
○しかし、神の似姿は失われていない  
○パウロは、罪のうちに生活していたコリント人すら「神の似姿であり、神の栄光の現れ」(Iコリント11:7)であると言った

8

---

---

---

---

---

---

---

---

自己像＝三脚の腰掛の上にある

☆あなたは、価値があるように創造されたから価値があるだけでなく、キリストの十字架と愛のゆえに、さらに偉大な価値がある

☆あなたは神に創造され、イエス・キリストに贖われたゆえに、価値がある

9

---

---

---

---

---

---

---

---

自己像＝三脚の腰掛の上にある

3. 有能であるという感じ

○私たちは、厳しい経験を通して有能感を傷つけてきた

○聖霊なる神との関係を理解し、経験するにつれて、あなたの自信は回復する

○聖書は私たちと聖霊との関係について多くのことを述べている

---

---

---

---

---

---

---

---

10

自己像＝三脚の腰掛の上にある

「この方は真理の御霊です。世はこの方を見ることも知ることもないので、受け入れることができません。あなたがたは、この方を知っています。この方はあなたがたとともにおられ、また、あなたがたのうちにおられるようになるのです。」

ヨハネの福音書 14章17節

「そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてくださいます。」

ヨハネの福音書 14章16節

---

---

---

---

---

---

---

---

11

自己像＝三脚の腰掛の上にある

全ての人に共通する情緒的必要が3つある

1. 人に愛され、受け入れられていると感じる必要、帰属感を持つ必要。【父なる神の愛】

2. 自分は自分を受け入れるに足る者であると感じる必要、価値があると感じる必要。【子なるキリストの愛・十字架】

3. 自分が適切であり、有能であると感じる必要。【聖霊による愛・賜物】

---

---

---

---

---

---

---

---

12